

Car Goods Magazine

[カー用品専科・月刊誌]

所有する喜び! 使いこなす醍醐味!!

[カーグッズマガジン]



2023
12
December
定価 660yen
(税込み)

www.cargoodsmagazine.co.jp

2023年10月17日発売
(毎月17日発売)

自らの手でマイカーを愛でる!

付きあい方
触れあい方
ヒント集



メンテナンス

カスタムDIY

共用バッテリーで電動ツール生活

一步踏み込む、カーメンテ所作

ハンドツール新世紀

新世代ペイント

カー&ホームケア

ネクストステージ

最新ツール&

ケミカル

六番勝負

駐車環境レベルアップ大作戦

ガレージ備品コレクション

DIY自作チャレンジ

配線処理の〇と×

プロ技に学ぶ

カーディテリング

の奥義

【特集】

クルマいじり テクニカルガイド

Car Goods Tasting

Audio-Technica AT-AQ460

ドアやフロアパネル、天井などに吸音材や制振材を貼り付けることで、車内を優れた音響空間に変える、いわゆるデッドニング作業。様々なメニューが用意されているが、今回はロードノイズを劇的に抑えることができる『タイヤハウス遮音』を実際に体感してみた。

まとめ：中井 隆 写真：和南城勝美

異種3層構造により、一度の施工で制振性と吸音効果を高めることができる。

劇的な遮音効果を体感できる タイヤハウス遮音を施す！

ロードノイズが大幅に軽減する！

車内の静音性を高めて、優れた音響空間を作り出すことができるいわゆる「デッドニング」。ドアパネルなどを外す作業以外は特別な工具を必要とせず、DIYでも気軽に挑戦できるが、実際の作業では様々なノウハウがあり、ドアやフロアパネル、ルーフパネルなど施工できる箇所も多く、実に奥の深いチューニングメニューなのだ。

そこで今回、オーディオテクニカとオートバックス北越谷の協力により体感したのが「タイヤハウス遮音」である。タイヤハウスカバーにオーディオテクニカのダンピングアブソーバー『AT-AQ460』を貼り付けることで、車内に入り込むロードノイズを大幅に低減する効果が得られるのだ。そして今回のテスト車はホンダ・N-BOX。まずは施工前にテスト走行し、車内の騒音をサウンドレベルメーターで計測してみた。最大68dBほどで、路面が荒れた場所

だと前方からのロードノイズがかなり気になった。

基本的な作業工程はタイヤとタイヤハウスカバーを外して、タイヤハウスカバーの内側に制振材を貼り付けて、元に戻すだけ。作業時間はフロント2カ所で3時間ほどだった。もちろん車種によって作業時間や難易度は異なってくるが、タイヤハウスは走行距離が増えるほど汚れが溜まるので、できれば新車時に作業するのが理想的だろう。

そして施工後、先ほどの走行コースを再びテスト走行。体感的にもフロントからのロードノイズは激減しており、サウンドレベルメーターの数値も最大61dBまで落ちていた。ただしリヤのタイヤハウスは未施工のため、後部からのロードノイズがかなり気になったが、これもフロアパネルに『AT-AQ460』を貼ることで激減すること。ほかのデッドニングメニューと比較して費用もリーズナブルに済むので、ぜひ実践してもらいたい。

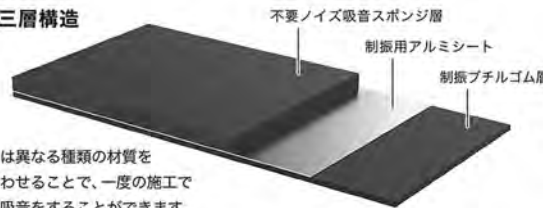


Audio-Technica ダンピングアブソーバー AT-AQ460

価格：1980円/1枚

ヴァージンブチルゴムとアルミシート、吸音スポンジの3種類の異なる材質を重ね合わせることで、高い制振性と吸音効果を発揮。サイズは500×250mmで厚さ7mm。ハサミやカッターで簡単に切ることができ、曲面にもしっかりフィット。

異種三層構造



本製品は異なる種類の材質を組み合わせることで、一度の施工で制振・吸音をすることができます。



タイヤハウス遮音の作業工程



1 今回、タイヤハウス遮音を施したテスト車「ホンダ・N-BOX」。



2 フロントをジャッキアップしてタイヤを外す。それほど高く上げる必要はないので、市販のジャッキでも作業は可能だ。



3 タイヤハウスカバーを止めているピンを外す。N-BOXでは左右フロントの合計で計30個のピンが使用されている。



4 樹脂製のタイヤカバーを取り外す。比較的柔らかな素材なので少し曲げれば簡単に引き出せるのだ。



5 タイヤハウスカバーを洗浄する。ほぼ新車状態だったのでほとんど汚れていないが、脱脂作業は必ず行うこと。



6 「AT-AQ460」を作業しやすい幅(5cm)にカットする。必要な枚数は車種によって異なるが、N-BOXでは計6枚のAT-AQ460を用意。



7 ヒートガンやドライヤーで粘着面を暖めると粘着性が高まり、曲面にもフィットしやすくなる。



11 ボディ側の空いている部分にもAT-AQ460を貼ると、さらに遮音効果が高まるのだ。



8 ローラーを使用し、凸凹した面にもしっかり貼り付ける。



9 ピンやフックなどを使用する部分には貼らないこと。少しすき間が空いていても問題はない。



10 ボディに戻す際、ピンで止める部分などにシートを貼り付けていないかを確認して完成。



オートボックス北越谷

埼玉県越谷市大字大里474-1
☎ 048-977-8335
<http://kitakoshigaya.ab-kk.com/>

同店では車検やタイヤ交換など通常のピットメニューはもちろん、独自のオーディオカスタマイズメニューを用意。価格表示もわかりやすく、予算に応じたカスタマイズが愛車に行えるのだ。



今回タイヤハウス遮音を施工してくれた、カスタマイズマネージャーの新川彰さん。幾多のイベント受賞歴のある実力者なのだ。

デッドニング関連のメニューもドアチューニングやフロアパネルなど、部所ごとに細かく価格が明示されており、予算に合わせたカスタマイズが可能だ。

独自のオーディオカスタマイズメニューを用意

約7dBも騒音をカット!



施工後の測定値は最大61dB。静かなオフィスレベルまで騒音が抑えられている。



施工前の測定値は最大68dB。人が普通に会話しているほどの大きさだ。

車内の遮熱・断熱にはこちらがお勧め

Audio-Technica
ヒートシールドラグ
AT-AQ490

価格：3080円/5枚入り

2種類の異なる素材のスポンジと熱を通しにくいガラス繊維入りアルミシートを組み合わせることで、高い遮熱・断熱効果を発揮。冬は熱が逃げるのを防ぎ、夏は熱の侵入を防いでくれる。サイズは500×150mm×厚さ8mm。

